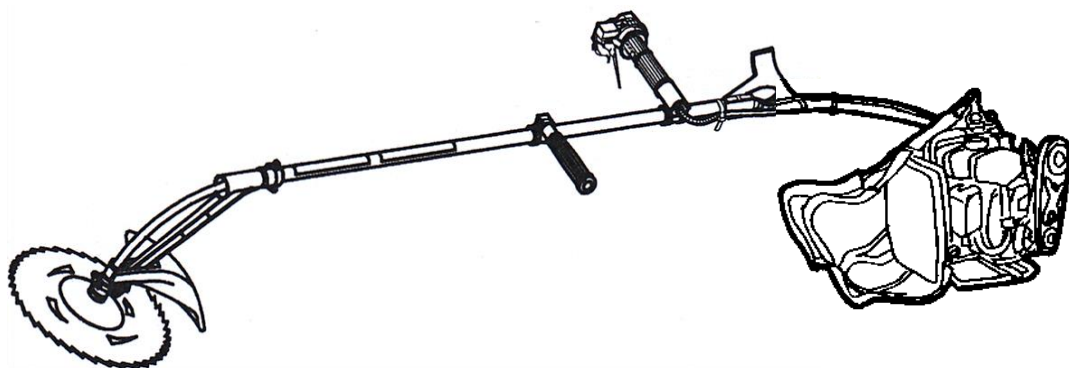


E-JE

背負式刈払機

PS2W PL2W K3W K4W PTM PTRT
GTM GTRT GTCM GTCRT GTCLM GTCLRT

取扱説明書



本刈払機は右差し専用機です。

* 左差しで使用される場合はお買上げ店
または営業所にご相談ください。



注意

- 製品をお使いになる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
- 取扱説明書はいつでも読めるように大切に保管してください。



山田機械工業株式会社

はじめに


このたびはビーバー刈払機をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

この取扱説明書は製品の正しい取扱方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。

初めてお使い頂く方はもちろん、すでにご使用の経験をお持ちの方にも再認識する上でお役に立つものと考えております。この取扱説明書および別冊エンジン取扱説明書も合わせて繰り返しお読み頂き、良くご理解頂いた上で、安全で効率の良い作業を始めてください。



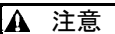
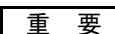

ビーバー刈払機は常におこたらない品質改良のため、取扱説明書の中にお買い上げの製品と詳細において異なる場合があります。あらかじめご了承ください。お買い上げの製品またはこの取扱説明書の内容に関するご質問は、お買い上げ店または営業所までお問い合わせください。

安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた  の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な事項です。よく読んで必ず守ってください。

・ 注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

-  **危険** : 注意事項を守らないと、火災の恐れがあるものを示しています。
-  **警告** : 注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しています。
-  **注意** : 注意事項を守らないと、けがを負う恐れのあるものを示しています。
-  **重要** : 注意事項を守らないと、機械の損傷や故障の恐れがあるものを示しています。
-  **補足** : その他、使用上役立つ補足説明を示します。

・ 操作装置のシンボルマーク

運転操作および保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。これらの表示に従って誤操作のないようご注意ください。

マーク表示部位	図 柄	意 味
燃料タンクキャップ		使用燃料の種別が「混合ガソリン」であることを表します。
エアクリーナカバー		このマークの方向にレバーを操作すると、チョークが閉じることを示します。
		このマークの方向にレバーを操作すると、チョークが開くことを示します。

注：機種によって図柄は異なることがあります。

目次

安全に作業するために	1
本製品をお使いになる前に	1
作業時の服装	1
火災防止	1
作業前の点検	2
作業時の注意	2
警告ラベルとその取扱い	3
1. 仕様・性能	4
2. 各部の名称	5
3. 組立	6
メインパイプの組付	6
フレキシブルシャフトの挿入	7
肘受の組付	7
メインパイプとエンジンの接続	7
飛散防護カバーの取付	8
巻付防止カバーの取付	9
刈刃の取付	9
移動時カバーの取付	9
4. 燃料	10
使用燃料	10
混合比	10
給油	10
5. エンジンの始動と停止	11
エンジンの始動	11
エンジンの停止	12
スロットルレバー扱い方	12
6. 操作方法	14
エンジンの背負い方	14
刃角度の変更方法	14
ループハンドルの組付	15
グリップ位置の調整	15
吊ゴム紐の組付	16
7. 刈払作業	17
8. 各部の手入れと長期保管	18
刈刃	18
フレキシブルシャフト	18
ギヤケース	18
ベアリングケース支持部	18
清掃	18
点検項目	19
長期保管	19

安全に作業するために

刈払機を安全にご使用頂くためには、正しい操作と定期的な保守が必要です。

取扱説明書および別冊エンジン取扱説明書に示されている内容をよくお読みになり、十分に理解されるまで刈払作業ならびに保守作業は行わないでください。

この取扱説明書に示されている操作方法および安全に関する注意事項は、刈払機を指定の使用目的に使用する場合のみに関するものです。

1 本製品をお使いになる前に

- 本製品は刈払専用機です。不測の事故を防ぐため、本来の使用目的以外には使用しないでください。
- 本製品は高速回転する刃物を装備しております。操作を誤ると大変危険です。次のような場合は作業を行わないでください。
 - ① 疲労など体調が悪い場合や、かぜ薬の服用時、飲酒時での作業。
 - ② 風の強い日や降雨、雷など天候の悪い時。
 - ③ 夜間や濃霧など、周辺の状況判断がむずかしい時。
 - ④ 子供や、説明を受けていない人には使用させないでください。
- 作業は30～40分を限度とし、10～20分休憩を取り、決して無理な作業はしないでください。
(参考) 厚生労働省では作業者の健康管理のため次のような基準が設けられています。

作業は連続3日を限度として

1回の連続作業時間	30分以内
1日の作業時間	2時間以内
1週の作業日数	5日以内
1月の作業時間	40時間以内

- 補給用燃料容器は丈夫で、密閉できるものを使用してください。
- エンジンの排気ガスによる中毒を防ぐため、換気の悪い場所での使用はしないでください。
- この取扱説明書は必ず保管して、分からないことがあった場合、必要に応じてご参照ください。
- 本製品を譲渡または貸与するときは、使用方法の説明とともに、この取扱説明書を必ず添付してください。

警告

本製品は運転中に電磁波が発生します。この電磁波はペースメーカーなどの電子機器の動作に影響する場合があります。ペースメーカーなど医療機器を装着している方は、本製品を使用前に医師または医療機器メーカーに相談してください。

2 作業時の服装

刈払作業には次のような用品を着用してください。

- ① すそを絞った長袖の上着と長ズボン。
- ② 滑り止めの付いた長靴または安全靴。
- ③ 帽子またはヘルメット、防護メガネ。
- ④ 丈夫な手袋、耳栓など。

3 火災防止

非常に引火しやすいガソリンを燃料としているため、次の事項をお守り頂かないと、火災の原因となります。

- 燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止してください。くわえタバコなど、周りに火の気がないこと、燃料漏れがないことを確認してください。
- 燃料を補給するときは、燃料をこぼさないようにしてください。もしこぼれたときは必ずふきとってください。こぼれたまま作業を行うと、マフラの熱や、電気系統のスパークによる火災を起こし、やけどを負う危険性があります。
- 給油後、燃料容器は密閉し火の気がなく、日の当たらない涼しいところに置いてください。
- エンジンを運転したまま、または停止直後は、マフラが熱くなっております。枯れ草などの上に置かないでください。

安全に作業するために

4 作業前の点検

- 作業前には必ず各項目に従って点検を行ってください。
- 点検は必ずエンジンを停止してから行ってください。
- エンジンが停止中でも安全のため、ストップスイッチは必ず OFF（停止）にしてください。（押しボタン式は除く）
- 停止直後は、マフラや点火プラグに触れないでください。やけどの危険性があります。
- 製品の改造、分解はしないでください。故障や正常な操作ができなくなる危険性があります。
- 各ボルト、ナット、シャフトにゆるみやガタがないこと、特に刈刃の組込みが完全なこと、ギヤケースの支持部にガタのないことを確認してください。
- 刈刃に「チップ飛び」「亀裂」「欠け」「曲がり」などが無いことを確認し、異常のある場合は新品の刈刃と交換してください。
- 交換部品はすべて、ビーバー純正部品を必ず使用してください。特に刈刃部への代用品の使用はしないでください。
- とどき刈刃と刃受金具を外し、ベアリング部に入りこんだ草、土、ほこりなどを取り除いてください。
- 転倒や不意の姿勢変化により、刈払機が作動して思わぬ負傷をすることがあります。次のような場合は必ず、エンジンを停止してください。
 - ① 移動や作業が終了して、本機を持ち運ぶする場合。
 - ② 巻付いた草などを取り除く場合。
 - ③ 作業中に後方より声をかけられた場合、振り向く前にエンジンを停止してください。
- 作業者に近づく場合は、木切れなどを作業者のそば近くに投げて合図をしてください。また笛を利用することもお勧めします。
- やけど防止のため、運転中および停止直後は、エンジン本体、マフラなどが高温のため、触れないよう注意してください。
- 刈刃は必ず機種に応じて指定したビーバー純正の刈刃を使用してください。
- 作業中、草などに隠れた石や木の切株などに十分注意してください。もし刈刃がこれらの硬いものに当たった場合は、すぐにエンジンを停止し刈刃に異常がないか点検し、異常がある場合は交換してください。
- 傾斜地などは滑りやすいので足元に十分注意してください。
- 作業が終わって移動、または収納する場合は刈刃に移動時カバーを必ず取り付けてください。

5 作業時の注意

- エンジン始動の際、周囲に人がいないこと、刈刃が地面その他のものに触れていないことを確かめてください。
- 感電ショックを受けないよう運転中は、点火プラグキャップや、高圧コードに触れないように注意してください。
- 作業者の周囲 15m 以内に人を近づけないでください。
- 飛散防護カバーを外した状態で使用しないでください。
- 作業中異常振動や異常音を感じたら、ただちにエンジンを停止し詳細に点検してください。
- 作業中ハンドルやグリップをしっかり握って操作してください。不意に硬いものが当たった時に手から外れることがあり危険です。

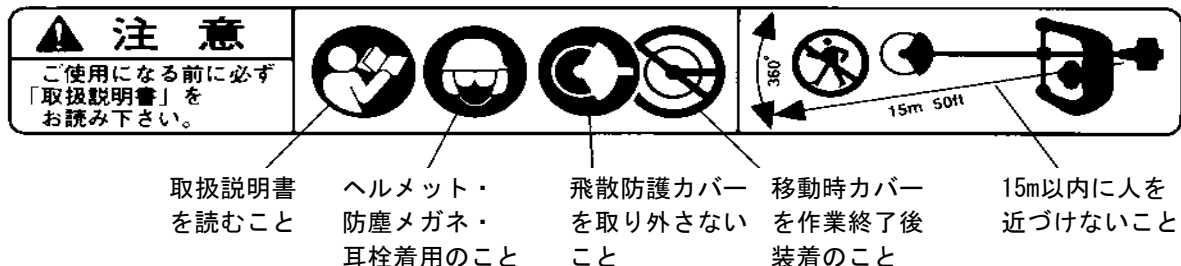
警 告

- 機械の改造は危険ですので、改造しないでください。
- 改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用方法と異なる場合は、メーカー保証対象外となります。

⚠ 安全に作業するために

警告ラベルとその取扱い

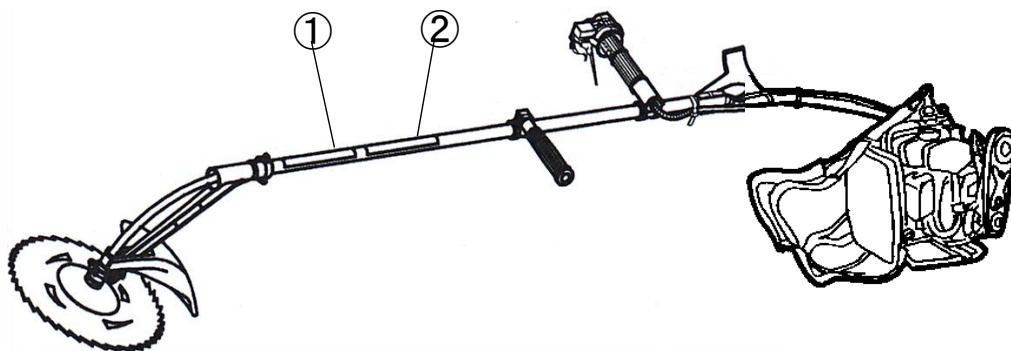
① 警告ラベル



② 型式名ラベル



- 上記ラベルはメインパイプに貼り付けてありますが、エンジン部に貼り付けのラベルについての詳細は別冊エンジン取扱説明書をご覧ください。



③ ラベルのメンテナンス

- (1) 警告ラベルは、いつもきれいにして傷をつけないようにしてください。
- (2) 警告ラベルが汚損したりはがれた場合は、お買い上げの販売店に注文し、新しいラベルと貼り替えてください。
- (3) 新しいラベルを貼る場合は汚れを完全にふき取り、乾いた面にして元の位置に貼ってください。

1. 仕様・性能

エンジン部

名 称		ビーバー背負式刈払機				
型 式		F270T	C270M	B367Z	B337M	L467Z
形 式		空冷2サイクルピストンバルブ式ガソリンエンジン				
排気量(cc)		25.4	25.6	33.6	32.6	41.5
点火方式		無接点マグネット式				
点火プラグ		RCJ6Y	BPMR8Y	RCJ6Y	BM6A	RCJ6Y
キャブレター		ダイヤフラム、ロータリーバルブ式				
燃 料		2サイクル専用オイル混合ガソリン ガソリン：2サイクルオイル=50：1（オイルFC級 又は FD級）				
燃料タンク 容 量 (ℓ)		1.0	1.0	0.9	1.0	0.9
始 動 方 式		引き力低減リコイルスタータ式				
エアクリーナ		乾式	半湿式	乾式	半湿式	乾式
外形 寸法 (mm)	全高	300	300	360	360	360
	全幅	280	280	300	280	300
	全長	350	350	350	350	350
質 量 (kg)		4.5	4.8	5.8	5.9	5.9

・質量、外形寸法はエンジンを含んだものです。

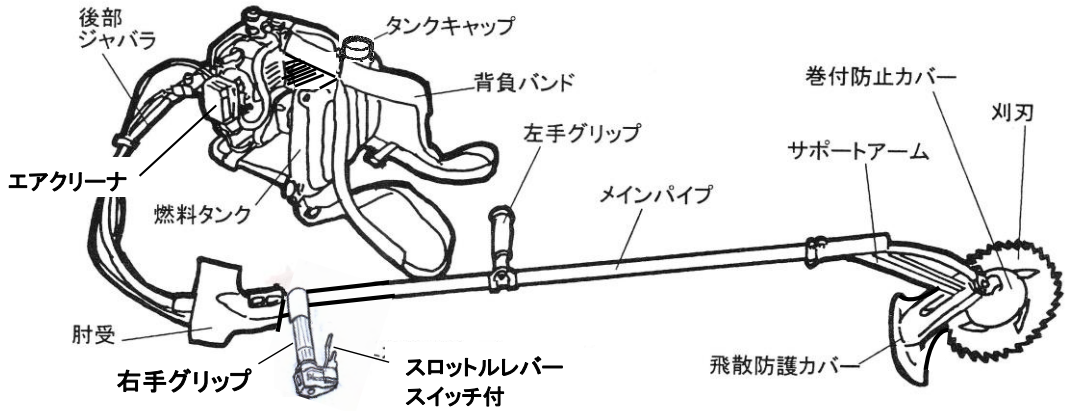
メインパイプ部

名 称		ビーバー刃角度可変 背負式刈払機				ビーバー刃角度固定 背負式刈払機					
型 式		PS2W	PL2W	K3W	K4W	GTM	GTRT	PTM	PTRT	GTCM GTCRT	GTCLM GTCLRT
ハンドル 形式	左右 グリップ	○	○	○	○	○		○		○ GTCM	○ GTCLM
	ループ ハンドル						○		○	○ GTCRT	○ GTCLRT
メインパイプ		アルミ製								カーボン製	
外形 寸法 (mm)	全長	2160	2260	2160	2260	2250	2250	2250	2250	2350	2650
	全幅	370	450	450	450	410	230	410	230	410/230	500/230
	全高	180	180	180	180	70	120	70	120	70/120	70/120
質 量 (kg)		2.9	3.1	3.5	3.6	3.1	2.8	2.8	2.4	3.1/2.7	2.9/2.4
刃の回転方向		上から見て反時計方向									
動力伝達方式		フレキシブルシャフト									
刈 刃		φ7	φ8			φ7		φ8	φ7		
刈 刃		10インチ（外径255mm）チップソー									

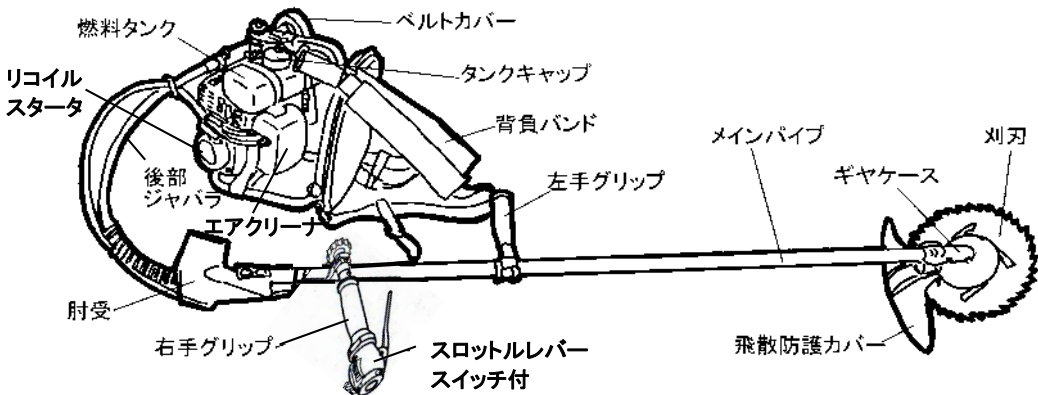
・質量は飛散防護カバー、刈刃を含んでおりません。

2. 各部の名称

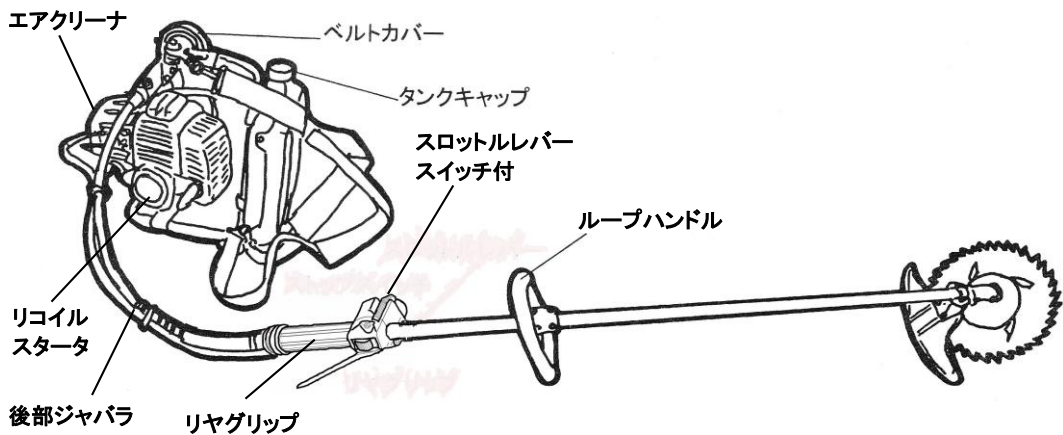
C270M - PS2W



L467 Z- GTM



B337M - GTRT

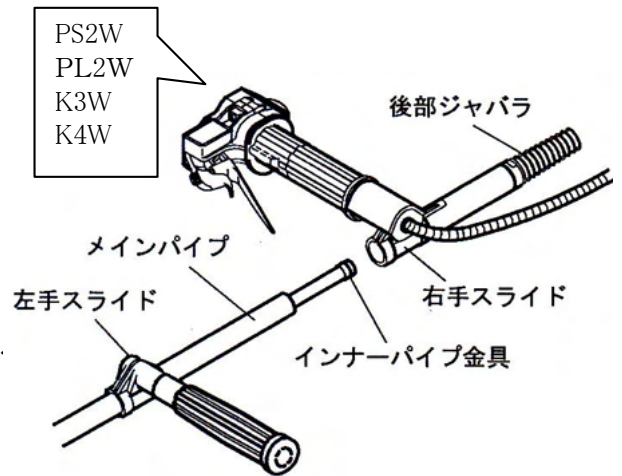


3. 組立

メインパイプの組付

[PS2W, PL2W, K3W, K4W]

- ① メインパイプに左手スライドを挿入してください。
- ② メインパイプを後部ジャバラのついた右手スライドに軽く差し込んでください。
- ③ 左手は前ジャバラが飛び出さないようサポートアームと前ジャバラをしっかり握り、右手は右手スライドをしっかり握ってください。
- ④ メインパイプを右手スライドに強く押し込み、インナーパイプ金具を右手スライド内部のジョイントパネにはめ込んでください。
- ⑤ 挿入後、右手スライドを前後に動かして抜けないこと、刃角度が変わることを確認してください。

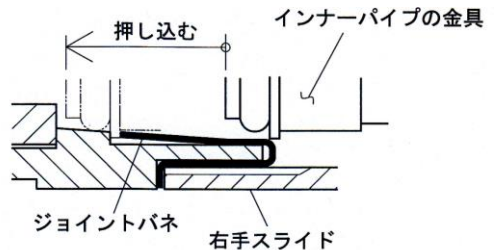


補足

- ・ 挿入の際、右手スライドを左右にひねりながら行くと入りやすくなります。
- ・ 入りにくい場合は、中間締付のネジを一旦ゆるめて再度押し込み、挿入後ゆるめた中間締付のネジを締め付けてください。



注意 確実に入っていないと刃角度の変更ができなかったり、刈刃が回転しない場合があります。



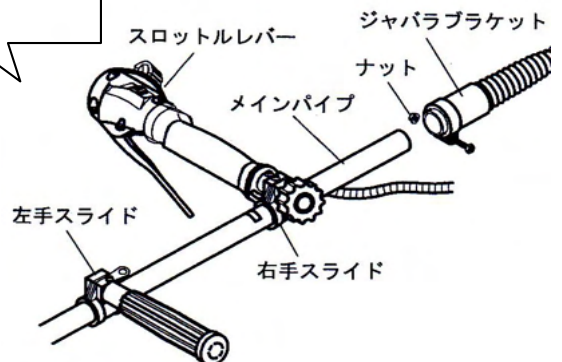
[GTM, GTCM, GTCLM, PTM]

- ① メインパイプに左手スライド、スロットルレバーの付いた右手スライドの順に挿入してください。
- ② メインパイプに後部ジャバラのついたジャバラブラケットを取り付け、ナットをしっかり締め付けてください。



注意 グリス漏れのないようにジャバラブラケットを完全に奥まで差し込んでください。

GTM
GTCM
GTCLM
PTM



フレキシブルシャフトの挿入

後部ジャバラのプラグよりフレキシブルシャフトの小さい金具の方から挿入し、挿入後シャフトの後端大きい金具を回して刃受金具が回ることを確認してください。

補足

シャフトが途中で入りにくい場合はフレキシブルシャフトを回しながら押しすとスムーズに入ります。

重要

シャフト挿入時、砂・ゴミなどが付着しないように注意してください。砂などが内部に入り込むと、フレキシブルシャフト、ベアリングなどに摩擦によるガタが生じ、寿命が著しく低下します。

肘受の取付

肘受を右手ハンドルと平行になるようにメインパイプの右に取付バンドとボルト (M6x25) 2本でしっかり締め付け固定してください。

[PS2W, PL2W, K3W, K4W]

ジャバラ保護材に寄せて取り付けてください。コルゲートチューブをコードバンドで結束してください。締めすぎに注意してください。

[GTM, GTCM, GTCLM, PTM]

肘受の先端を取付位置シールに合わせて取り付け、コルゲートチューブをコードバンドで結束してください。締めすぎに注意してください。

メインパイプとエンジンの接続

① セットパネを横に回してソケット内部の四角穴シャフトに、フレキシブルシャフトの端部を挿入しながら後部プラグを差し込んでください。

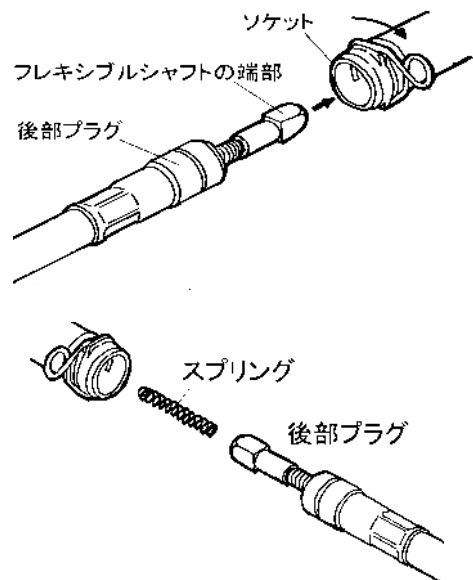
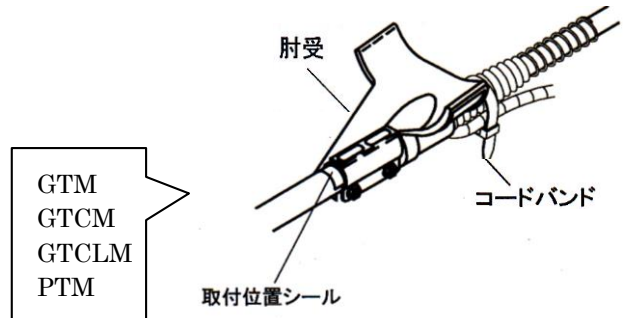
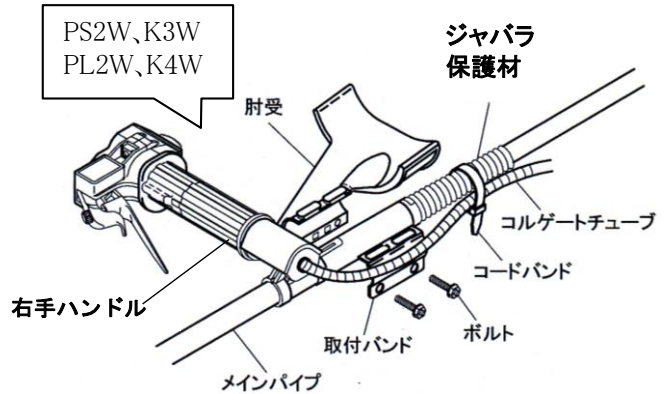
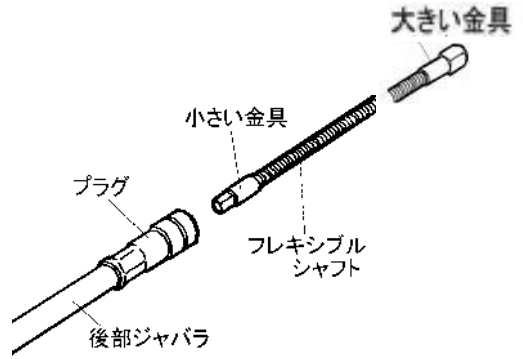
重要

後部プラグ接続の際、角穴シャフト内にスプリングが入っていることを確認してください。スプリングがないと作業中に刈刃が回らなくなることがあります。

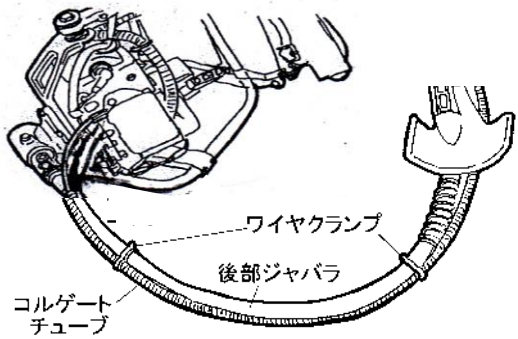
補足

後部プラグ接続の際、フレキシブルシャフトを5cmほど引き抜き、先にソケット内部の角穴に差し込むと容易に接続できます。

② セットパネを後部プラグの溝にはまるように戻してロックした後、後部プラグを引っ張って抜けないことを確認してください。

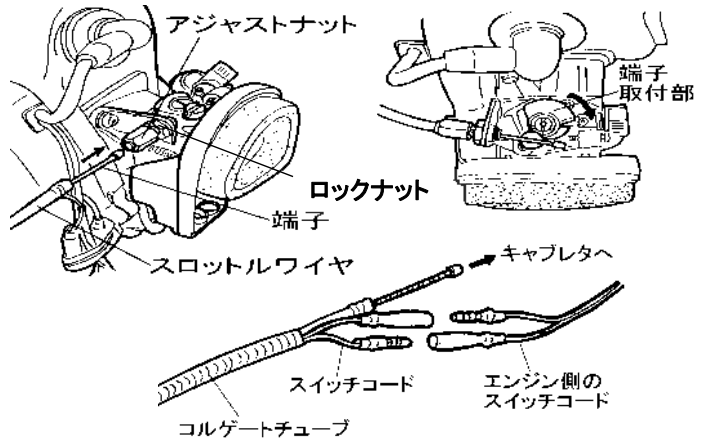


- ③ ジャバラに付いているワイヤクランプにスロットルワイヤとリード線の入ったコルゲートチューブを通してください。
- ④ スロットルワイヤの端子をアジャストナットに通し、キャブレタの端子取付部に取付けてください。
- ⑤ ロックナットをゆるめ、ワイヤの遊びが1~2mmになるようにアジャストナットを調整しロックナットで固定してください。
- ⑥ スイッチコードをエンジン側のスイッチコードに接続して下さい。



補足

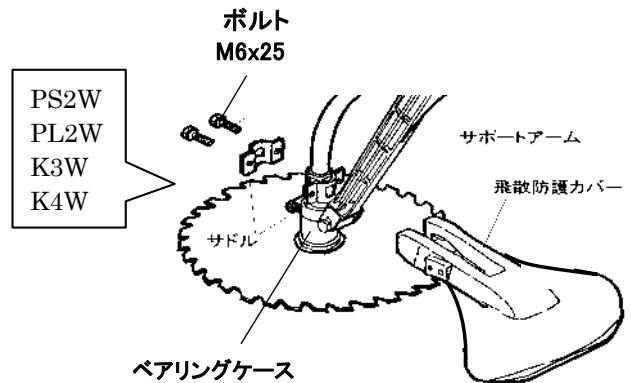
- ・コード接続の際、端子部分にゴミなどが付着していないかよく確認してから接続してください。
- ・コードは強く引っ張ったりねじったりしないでください。



飛散防護カバーの取付


[PS2W, PL2W, K3W, K4W]

- ① ベアリングケース上部の細い部分にサドルを両脇に当て、ボルト2本 (M6×25) で締め付けてください。
- ② 締め付け後、刈刃の角度を変えてみてカバーとサポートアームが触れないことを確認してください。



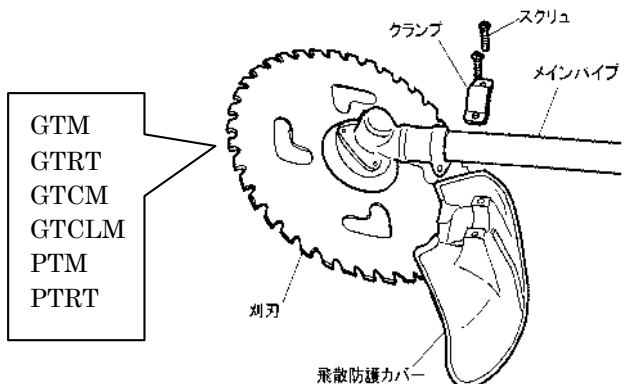
[GTM, GTRT, GTCM, GTCLM]
[PTM, PTRT]

- ① メインパイプに飛散防護カバーをボルト2本 (M6×25) で仮止めしてください。
- ② 飛散防護カバーの下部が刈刃より3~5mm下がった位置にしっかりと固定してください。



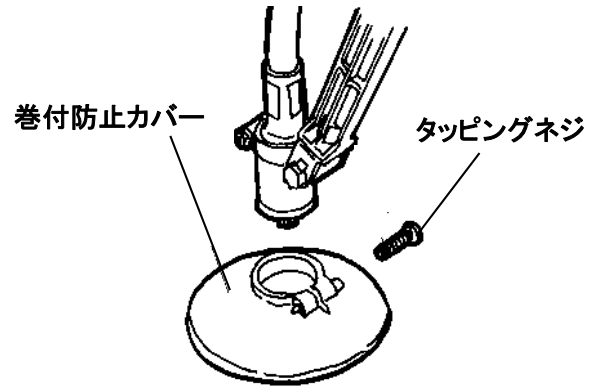
警告

- ・ 刈刃との隙間を十分とって、刈刃に飛散防護カバーが触れないように取り付けてください。
- ・ 飛散防護カバーは所定の位置にしっかりと取り付けてください。取り外したり、ゆるんだままご使用になるとカバーが刈刃に触れて破損したり、はね返った石や木切れなどで重大な人身事故につながる恐れがあります。



巻付防止カバーの取付

- ① 刃受金具と刃押え金具を外し、巻付防止カバーをベアリングケースまたはギヤケースにはめ込んでください。
- ② タッピングネジを締め付けて固定してください。

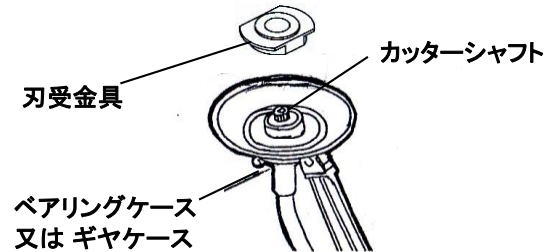
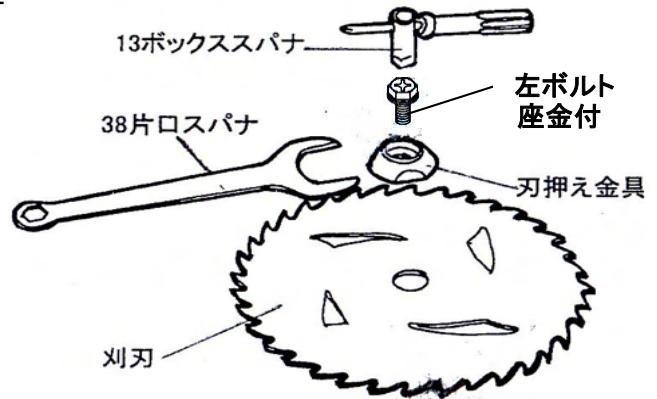


刈刃の取付

- ① 刈刃をビーバーマークのある面をベアリングケースまたはギヤケース側にして、刈刃の中央の穴を刃受金具の凸部にはめ込んでください。
- ② 刃押え金具の凹部を刃受金具の凸部とカッターシャフトにはめ込んでください。
- ③ 左ボルト(座金付)で確実に締め付けてください。

重要

- 刈刃を交換するときその都度刃受金具も外し、ベアリング部に入りこんだ土や草をきれいに取り除いてください。ベアリング摩擦によるガタ、さびなどが発生しシャフトが外れる恐れがあります。
- 本機に付属の外径255mm(10インチ)刈刃の大きさを越える刈刃は使用しないでください。



警告

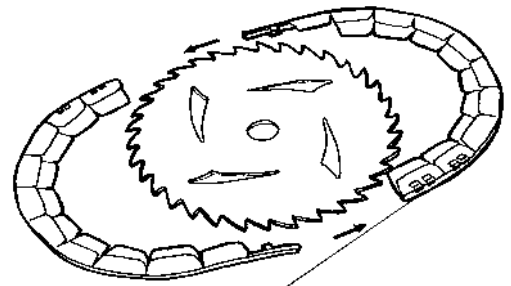
- 刈刃の交換は必ずエンジンを停止して行ってください。
- 作業時は手袋等を着用ください。
- 取り付け後、刈刃およびカバーが完全に取り付けられていることを確認してください。
- 刈刃取付部品は、他機種部品を使用しないでください。規格やサイズが合わない場合があると、刈刃が外れ重大な人身事故につながる恐れがあります。

移動時カバーの取付

作業が終わって移動したり収納する場合は、刈刃に移動時カバーを取り付けてください。

警告

作業が終わって本機を持ち歩きする場合は、刈刃が人や物に触れる恐れがあります。必ず移動時カバーを取り付けてください。



10インチは255m/mの位置で止めてください

4. 燃料

使用燃料

燃料は、ガソリンと空冷2サイクルエンジン用オイルの混合燃料をご使用ください。

重要

- ・ オイルは、必ず空冷2サイクルエンジン用オイルを使用してください。4サイクルエンジン用オイルや水冷2サイクルエンジン用オイルは使用しないでください。スパークプラグ汚損やピストンリング固着、マフラづまりなどを起こしやすくなります。
- ・ 燃料は、紫外線や高温に長時間さらされると変質劣化し、始動不良や出力不足の原因になります。混合燃料は、30日以内を目安に使い切るようにしてください。
- ・ 燃料の保管は室内の冷暗所に保管してください。
- ・ 水の混入燃料を使うと、キャブレタやエンジンの内部が腐食します。本機や燃料容器に水が掛らないようにしてください。

混合比

燃料は、自動車用無鉛ガソリンと空冷2サイクルエンジン用オイルを下記割合で混合容器に入れ、容器を振ってよく混ぜたものを使用してください。

2サイクルエンジン用オイル

(JASO FC級 又は FD級) --- · 50 : 1
ガソリン1Lに対してオイル20mL



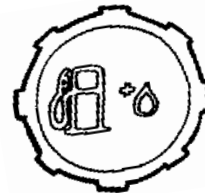
給油

- ① 給油する機械を屋外の平坦な場所に置き、安定させてください。
- ② 燃料タンクのキャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部の気圧差を取り除いてください。
- ③ 燃料タンクのキャップを取り外し、8分目を目安に少しずつ給油してください。
- ④ 給油が終わりましたら燃料タンクのキャップを確実に締め付けて、燃料漏れの無いことを確認してください。

危険

- ・ 燃料タンクへの給油は、屋外の平坦な場所で行ってください。
- ・ 給油時はまわりにタバコなどの火の気のない所で行ってください。
- ・ 作業の途中で給油を行う場合は、必ずエンジンを停止し、冷えてから行ってください。
- ・ 燃料タンクのキャップは確実に締めてください。
- ・ 給油時に燃料がこぼれた時、エンジンを始動すると火災の恐れがあります。必ず始動前には、布でふき取ってください。

燃料キャップ



重要

燃料タンクへの給油は、8分目を目安にしてください。燃料を入れ過ぎると、運転中に燃料キャップから燃料が漏れる恐れがあります。

5. エンジンの始動と停止

エンジンの始動

- ① ストップスイッチが始動側の位置にあることを確認してください。
- ② キャブレタの下にある始動ポンプを数回押し、オーバーフローパイプに燃料が流れるのを確認したら押すのをやめてください。
- ③ チョークレバーを閉にし、刈払機をしっかり保持し、リコイルスタータを軽く引いてください。

重要

- ・ エンジンの始動時は、まわりに人がいないこと、刈刃が地面に触れていないことを確認してから始動してください。
- ・ エンジンの始動時は、スロットルレバーをアイドルの位置に合わせてから始動してください。
- ・ スタータロープは最後まで引ききったり、引っ張った状態から手をはなさないでください。



Wレバーのメインレバーを引いた状態でエンジンの始動を行うと、始動と同時に刈刃が回り、人身事故の恐れがあります。

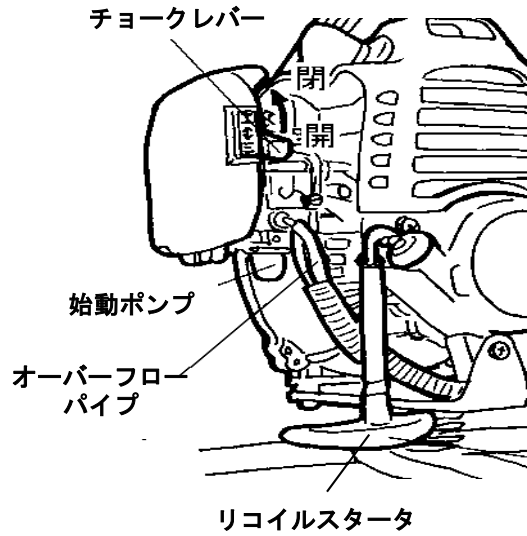


エンジンが遅れてかかる場合があります。エンジンがかかるまで刈払機を押えておいてください。

- ④ エンジンが始動したらチョークを徐々に開き、エンジンを2～3分暖機運転をしてください。

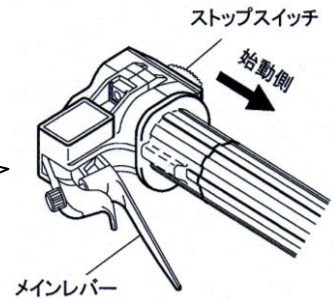
補足

- ・ エンジンが暖まっているとき（停止後、約15分以内）は、始動ポンプの操作は不要です。但し、燃料がなくなり、燃料の補充をした後の再始動には、始動ポンプの操作をしてください。
- ・ エンジンの停止直後の再始動は、始動ポンプを押さずにチョークを開にし、メインレバー又は、スロットルレバーを戻し、スタータロープを引いてください。



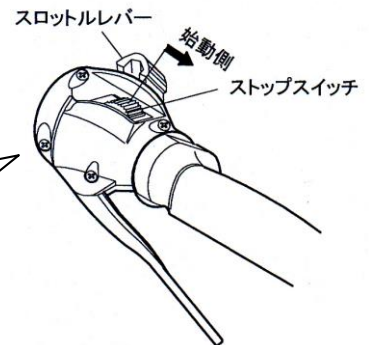
Wレバー

PS2W
PL2W
K3W
K4W



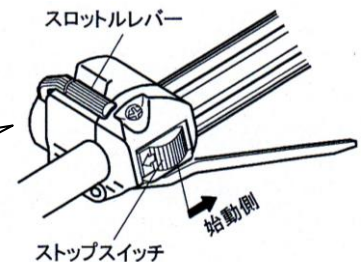
Mレバー

GTM, GTCM
GTCLM, PTM



Tレバー

GTRT
PTRT



エンジンの停止

[Wレバー]

メインレバーを放し、アイドル状態にします。ストップスイッチを停止側[STOP]に移動するとエンジンが停止します。

[Mレバー]

スロットルレバーを低速側に移動させ、アイドル状態にします。ストップスイッチを停止側[停止]に移動するとエンジンが停止します。

[Tレバー]

セーフティレバーを放すと同時にスロットルレバーがアイドル状態に戻ります。ストップスイッチを停止側[停止]に移動するとエンジンが停止します。

重要

緊急時を除く高速回転からのエンジン停止は、エンジンに無理がかかります。必ずアイドル状態にしてからエンジンを停止してください。

スロットルレバーの扱い方

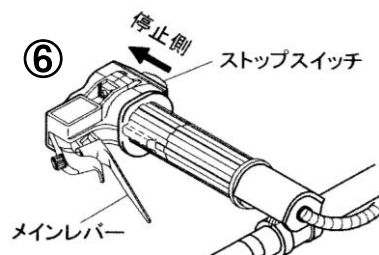
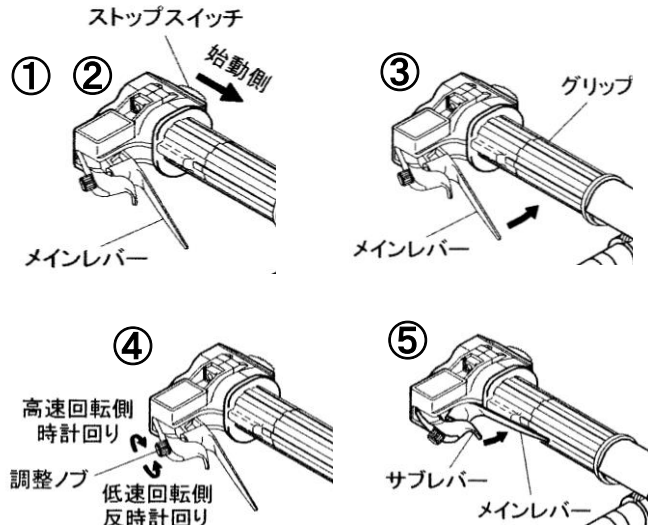
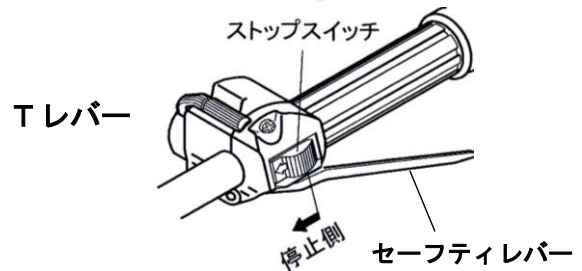
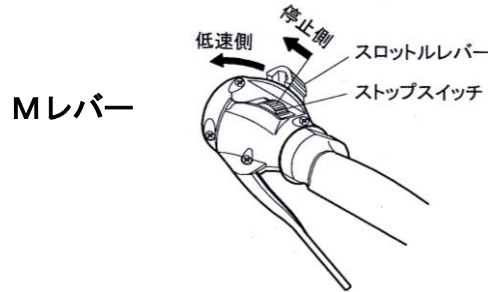
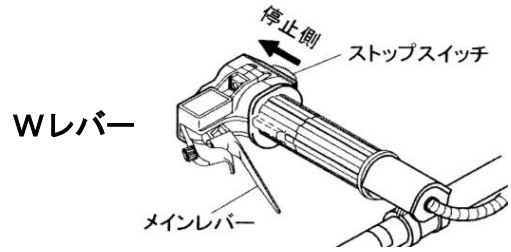
[Wレバー]

- ① エンジンの始動前には、ストップスイッチを始動側 [START] に移動してください。
- ② メインレバーを握らないでエンジンを固定して、エンジンを始動してください。
- ③ メインレバーがグリップに当たるまで徐々に握ってください。エンジンの回転が速くなると同時に刈刃の回転も速くなります。
- ④ 刈刃の回転を草刈作業に適した回転速度に調整してください。
 - ・ 回転速度が速い時は調整ノブを反時計回りにゆるめてください。
 - ・ 回転速度が遅い時は調整ノブを時計回りに締めてください。

補足

草刈作業中、エンジンの回転速度が変わる場合があります。その時は再度、調整ノブで刈刃の回転速度を調整してください。

- ⑤ 一時的に刈刃の回転を上げたい時は、メインレバーを握ったままサブレバーを引いてください。サブレバーをいっぱい引くとエンジンが最高回転まで上がります。
- ⑥ エンジンの停止は、メインレバーを放しストップスイッチを停止側 [STOP] に移動してください。



[Mレバー]

- ① エンジンの始動前には、ストップスイッチを始動側〔運転〕に移動し、エンジンを固定してエンジンを始動してください。
- ② セーフティレバーをグリップに当たるまで握り、スロットルレバーを除々に高速側に移動させ、刈刃の回転を草刈作業に適した速度に調整してください。

補足

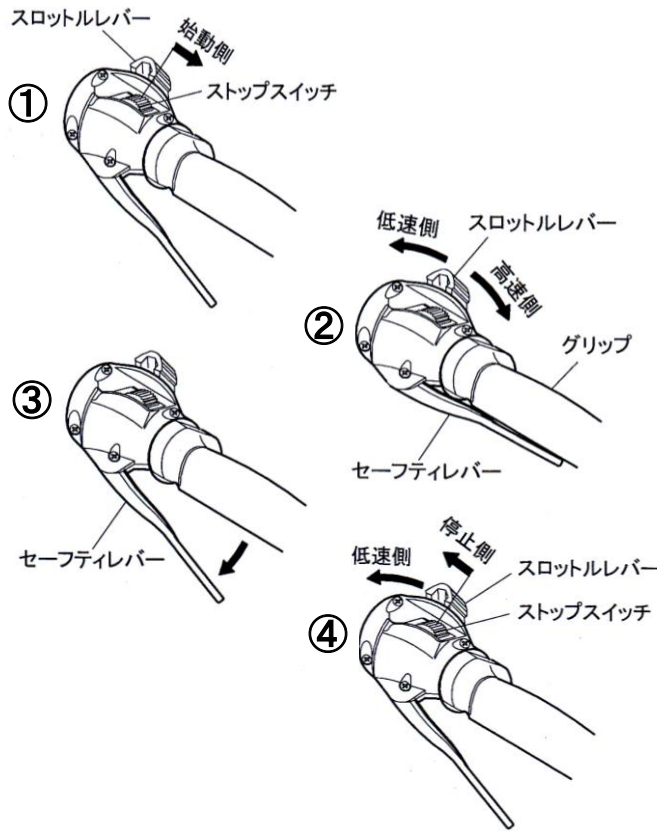
草刈作業中は、セーフティレバーを握ったまま作業を行ってください。

- ③ 草刈作業終了後は、セーフティレバーを放し、アイドル状態に戻します。エンジンの回転が止まると同時に刈刃の回転も止まります。

補足

作業中セーフティレバーを放しても、再びセーフティレバーを握ると元の回転速度にもどります。

- ④ エンジンの停止はスロットルレバーを低速側に移動させてください。アイドル状態でストップスイッチを停止側〔停止〕に移動するとエンジンが停止します。



[Tレバー]

- ① エンジンの始動前には、ストップスイッチを始動側〔運転〕に移動し、エンジンを固定してエンジンを始動してください。
- ② セーフティレバーをグリップに当たるまで握り、スロットルレバーを除々に高速側に移動させ、刈刃の回転を草刈作業に適した速度に調整してください。

補足

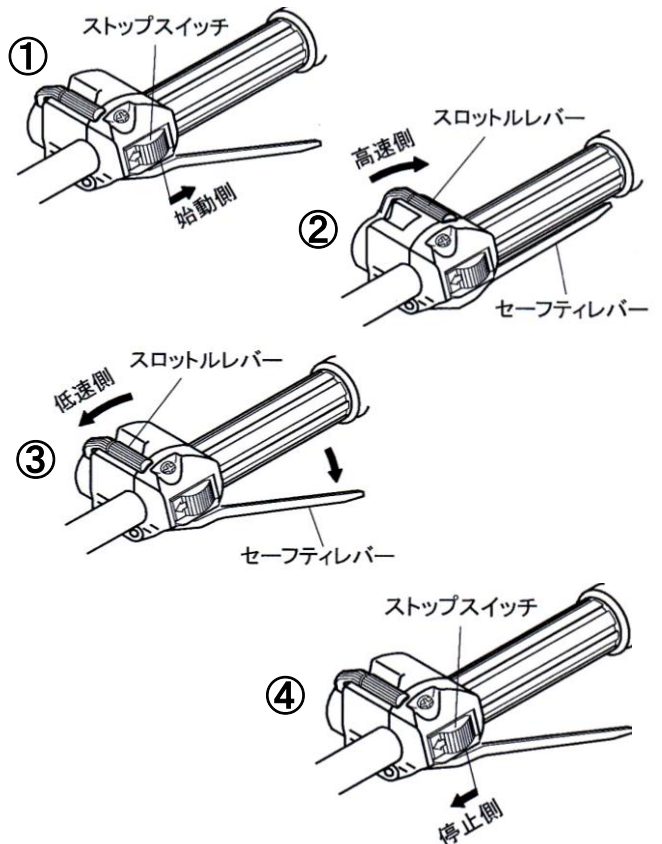
草刈作業中は、セーフティレバーを握ったまま作業を行ってください。

- ③ 草刈作業終了後は、セーフティレバーを放し、アイドル状態に戻します。エンジンの回転が止まると同時に刈刃の回転も止まります。

補足

セーフティレバーを放すと同時に、スロットルレバーが低速側に戻りアイドル状態になります。草刈作業再開の時は②の手順で作業を再開してください。

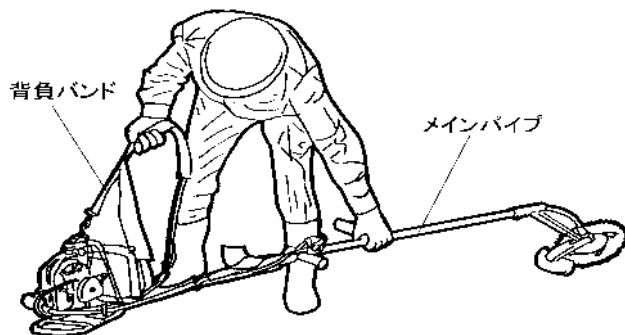
- ④ エンジンの停止はセーフティレバーを放し、アイドル状態でストップスイッチを停止側〔停止〕に移動するとエンジンが停止します。



6. 操作方法

エンジンの背負い方

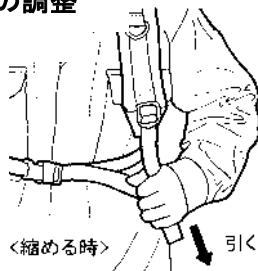
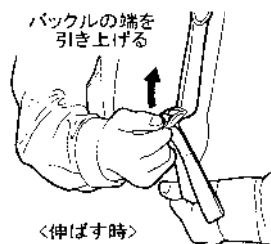
- ① 左手でメインパイプ中間部を持ち、右手で本機の背負バンド右を持ち右肩に掛けます。
- ② メインパイプを右手に持ち替え、背負バンド左を左肩に掛けます。
- ③ 背当マットが腰の上になるよう背負バンドの長さを調節してください。
- ④ 背中でエンジンが安定するように、胸バンドを適度に締め付けてください。
- ⑤ 左の手のひらを下に、右の手のひらは上に向けてグリップを握り、右肘は肘受にのせます。



警告

- ・ 背負う時は、まわりに人のいない事を確認し、必ず刈刃が停止していることを確認してから背負ってください。まわりに人がいると人身事故を起こす恐れがあります。
- ・ 刈刃が回転したまま背負うと、回りのものや、身体に刈刃が触れ、重大な事故につながる恐れがあります。

背負いバンドの調整



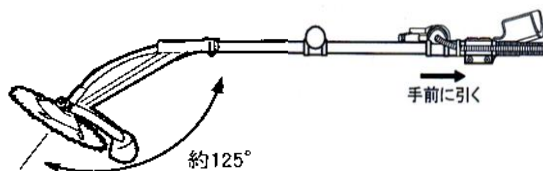
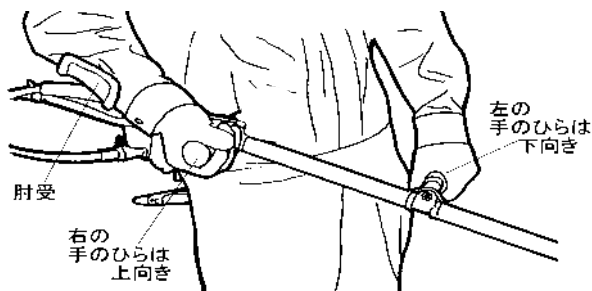
警告

背負う時、後部ジャバラにスロットルワイヤが巻きついていないか確認してください。巻きついていると始動時に刈刃が急に回り非常に危険です。

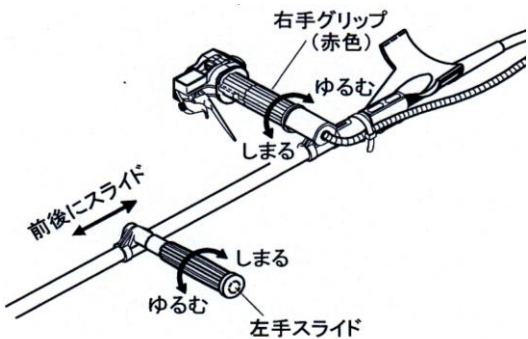
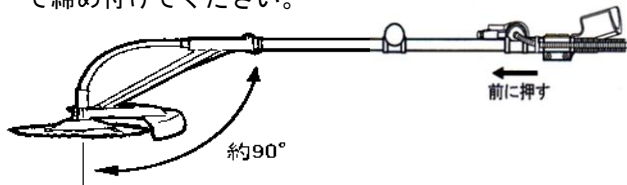
刃角度の変更方法

[PS2W, PL2W, K3W, K4W]

- ① 右手グリップを左（ユルム）に回してゆるめ、手前に引くと刈刃の回転軸の角度はメインパイプに対して約 125° となります。平坦地での作業や、傾斜に向かって登るような作業などに適しています。角度が決まりましたら右手グリップを右（シマル）に回して締め付けてください。



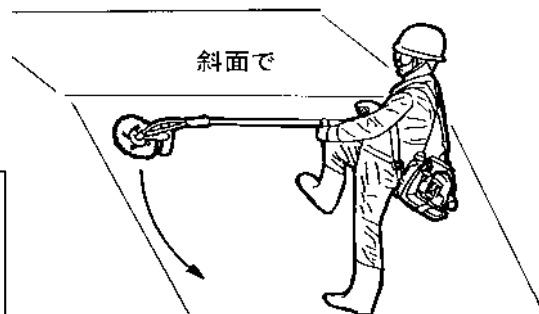
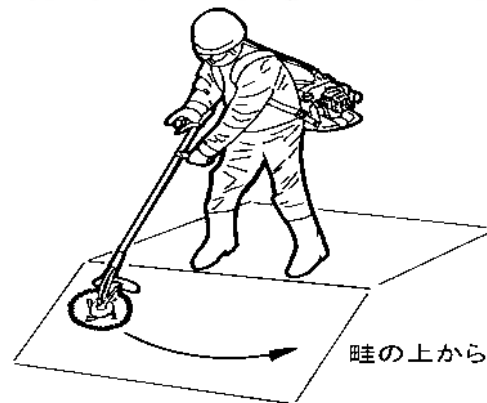
- ② 右手グリップを左（ユルム）に回してゆるめ、前に押しと刃の回転軸の角度はメインパイプに対して約90°になります。畦の上から畦の下からに向かう作業や、畦の下から畦の斜面を刈るときに斜面に合わせて刃角度を調整してください。刃角度が決まりましたら右手グリップを右（シマル）に回して締め付けてください。



- ③ 左手グリップは左に回してゆるめることにより、固定位置を変更できます。身長や好みによって位置を変更してください。



刃角度変更は必ず、刃の回転が止まってから行ってください。



ループハンドルの組付

[GTRT, GTCRT, GTCLRT, PTRT]

メインパイプに貼り付けてある取り付け位置シールの赤い線の後に、ループハンドルを4本のスクリュで取り付けして下さい。

補足

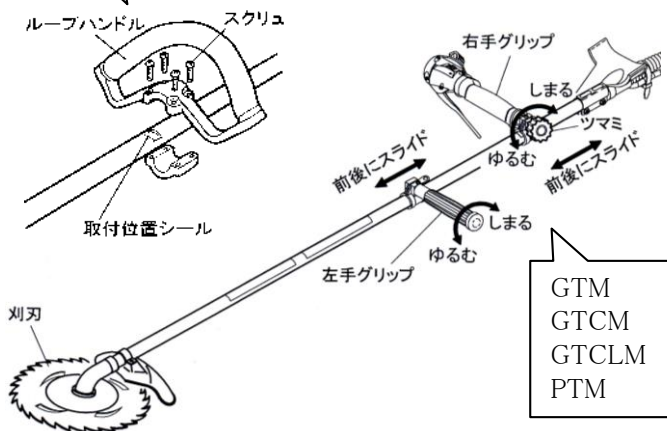
取り付け位置シールは最適と思われる取り付け位置を示していますが、身長や好みに合わせ適切な位置に取り付けて下さい。

GTRT
GTCRT
GTCLRT
PTRT

グリップ位置の調整

[GTM, GTCM, GTCLM, PTM]

左手グリップ、右手ハンドルのツマミを左に回し、ゆるめることにより、固定位置を変更できます。身長や好みに合わせ位置を決めてください。位置が決まりましたら左手グリップ、ツマミを右に回して締め付け固定してください。右手グリップは取り付け位置シールの手前に取り付けてください。



補足

左右グリップは刈刃と平行になるように固定してください。



- ・ 左グリップ、右ハンドルの位置変更は必ず、刃の回転が止まってから行ってください。
- ・ 左グリップ、右ハンドルは作業中動かないようしっかり締め付けてください。
- ・ 作業中ゆるんだ場合、ものに当たって刈刃やメインパイプが大きくはねられる恐れがあり、たいへん危険です。

吊ゴム紐の組付

付属の吊ゴム紐を使用すると疲れないで快適に作業ができます。

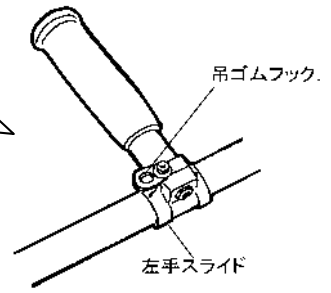
[GTM、GTRT、GTCM、GTCRT、GTCLM、GTCLRT、PTM、PTRT]

- ① 吊ゴム紐の先端は左手スライド、またはループハンドルに取り付けた吊ゴムフックに引っ掛けてください。
- ② 吊ゴム紐の後端は背負バンドの金具に吊ゴム紐のフックをはめ込んでください。
- ③ 吊ゴム紐の長さ調整は調整金具を前または後に動かし作業性の良い位置で止めてください。

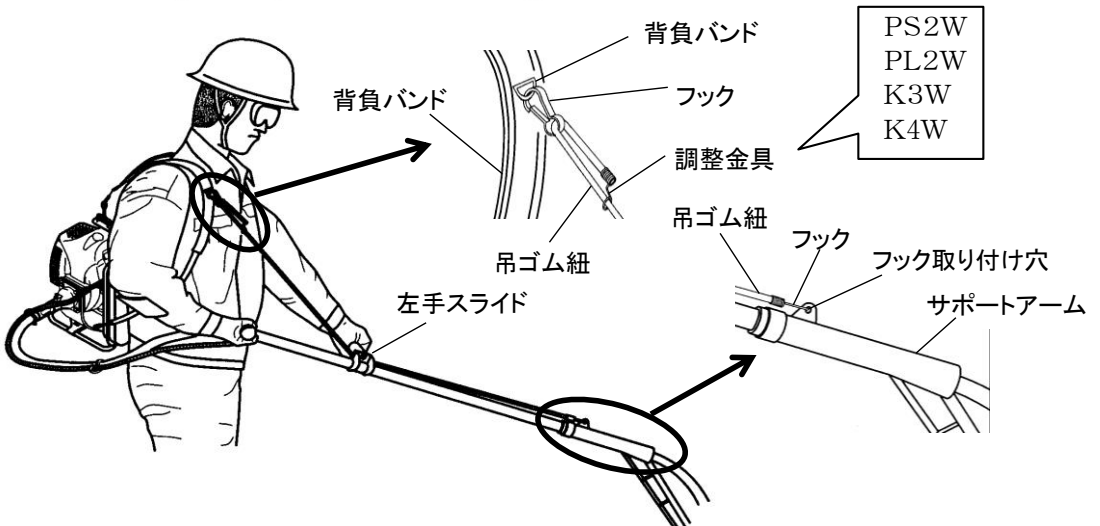
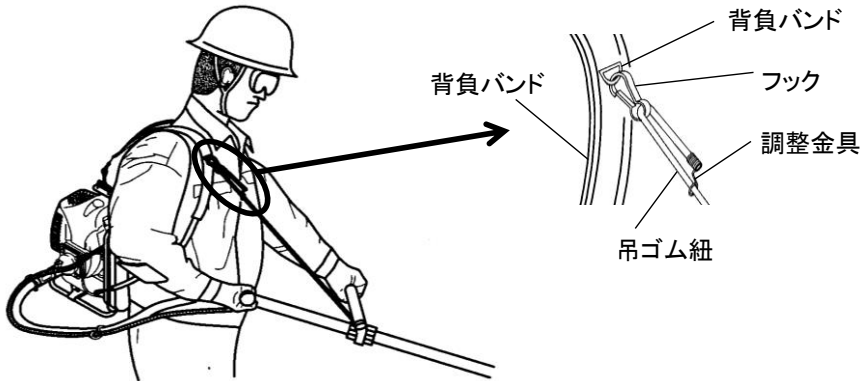
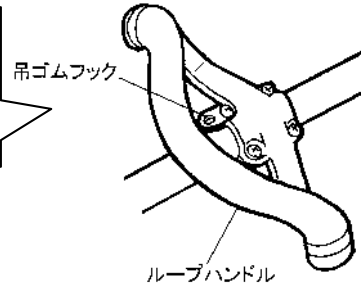
[PS2W、PL2W、K3W、K4W]

- ① 吊ゴム紐をサポートアームのフック取り付け穴に引っ掛けてください。
- ② 吊りゴム紐を左手スライドの根元下部を通し、背負バンドの金具に吊ゴム紐の後端のフックをはめ込んでください。
- ③ 吊ゴム紐の長さ調整は調整金具を前または後に動かし作業性の良い位置で止めてください。

GTM
GTCM
GTCLM
PTM



GTRT
GTCRT
GTCLRT
PTRT



7. 刈払作業



警告

作業を始める前に必ず、1 ページ、2 ページの「安全に作業するために」の事項を守ってください。

- ① 背負バンドを肩に掛け、刈刃が地面とほぼ平行になるように刃角度を決め、グリップの位置を固定してください。
- ② エンジン回転を草の状態によって調整してください。柔らかい春草などはスロットルを半開程度、秋草や密生している草は2/3開程度に回転を上げてください。
- ③ 足は左右に60~70cm開き、右足を前にし、右足から進むようにします。刈刃は左に30°傾け状態で右から左に向かって振ります。刈刃いっぱい刈ろうとせず、刈刃の左前半分で刈るようにしてください。
- ④ 先に右足を約15cm、次に左足を約15cm前進させます。



必ず、右足を先に出して進んでください。左足を先に前に出すと刈刃で切る恐れがあります。

補足

- ・ 刈刃の回転が低すぎると草の巻付きが多くなるばかりでなく、クラッチの早期摩耗の原因ともなります。
- ・ 刈刃いっぱいの幅で刈ろうとすると、刈り残しができたり、刈った草がきれいにそろわず飛散したりします。



警告

- ・ 刈払作業はどのような場合でも、刈払い対象物を刈刃の左側で切るように、必ず右から左に向かって切ってください。刈刃の回転が左回転のため刈刃の右側に硬いものが当たると、刈刃が勢いよく作業者にはねかえってくることもあり非常に危険です。
- ・ 刈払作業の際、草に隠れた石や木の切り株には十分注意してください。刈刃が欠けたり石が手前に飛んでくることがあり危険です。

木の切断

[GTM, GTRT, GTCM, GTCRT, GTCLM, GTCLRT]

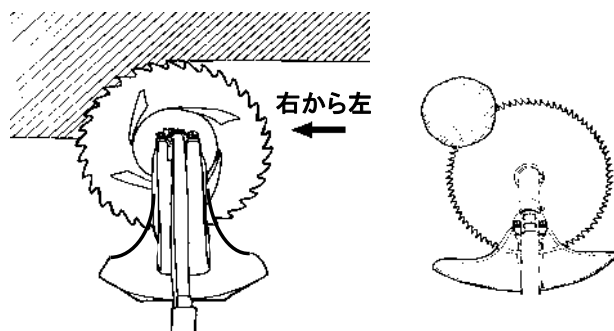
歯数が80枚程度の鋸刃を使用し、鋸歯の左前半分で、無理に押さないで切断してください。

補足

木の切断で大事なことは鋸刃の目立てとアサリ分けです。切断はエンジンの力ではなく歯の切れ味で切るということを念頭において、歯の手入れを行ってください。



必ず、右足を先に出して進んでください。左足を先に前に出すと刈刃で切る恐れがあります。



8. 各部の手入れと長期保管

警告

- 点検整備は必ずエンジンを停止し、刈刃の回転が停止してから行ってください。
- 本機及びエンジンの改造や分解はしないでください。事故や重大な人身事故を招く恐れがあります。製品の改造が原因で故障した場合は、メーカー保証対象外となります。
- 部品交換は純正部品または指定品を使用してください。
- 点検整備は作業前および作業が終了した都度行ってください。

刈刃

- ① 刈刃部のシャフト、ボルト、支持部にガタやボルトのゆるみがないか確認し、異常がある場合は増し締めまたは新しい部品と交換してください。
- ② 刈刃や飛散防護カバーに草やビニールが巻付いていないか確認してください。また、巻付き防止カバーや、刃受金具の中に巻付いた草やビニールが入っていないかも確認してください。
- ③ 刈刃に「チップ飛び」「亀裂」「欠け」「曲がり」などがなく特になんか注意して点検してください。異常のある場合は新品と交換してください。

重要

- 刈刃の切れ味が悪いとエンジンやシャフトに無理がかかるばかりでなく、作業効率も低下し疲労度や危険性も増します。
- 巻付き防止カバーや刃受金具の中に巻付いた草やビニールが入ったまま使用すると、回転が上がらなかつたりベアリングの異常摩耗などの故障につながり危険です。

フレキシブルシャフト

使用20時間ごとにフレキシブルシャフトを1m位後部ジャバラのプラグより引き抜き、グリスを塗布してください。

重要

グリスが不足すると、振動が大きくなったり、ジャバラが過熱して被覆が破損したり、フレキシブルシャフトが切れることがあります。

ギヤケース

使用25時間ごとにギヤケースのグリスプラグを外してグリスを補充してください。

ベアリングケース支持部

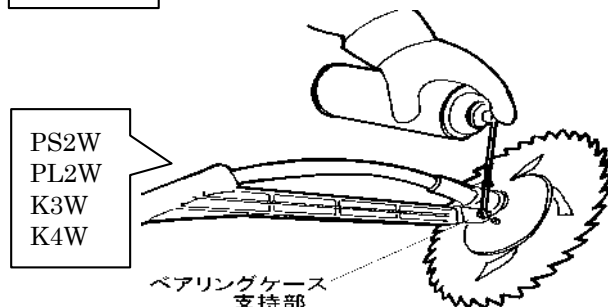
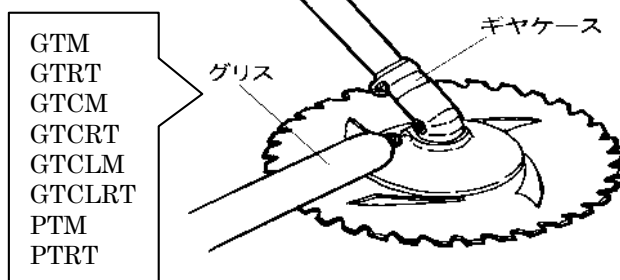
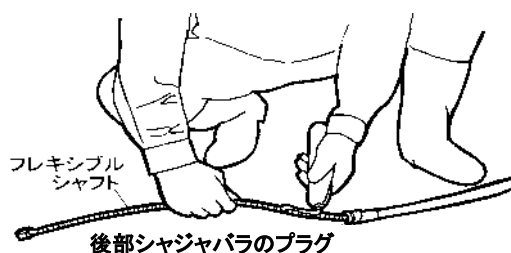
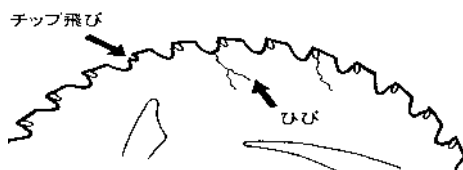
ベアリングケース支持部の可動部分には注油してください。

清掃

エンジンのエアクリーナや冷却風の通り道に付着したホコリやゴミをていねいに取り除いてください。

重要

ホコリやゴミの付着はオーバーヒートの原因となります。



点検項目

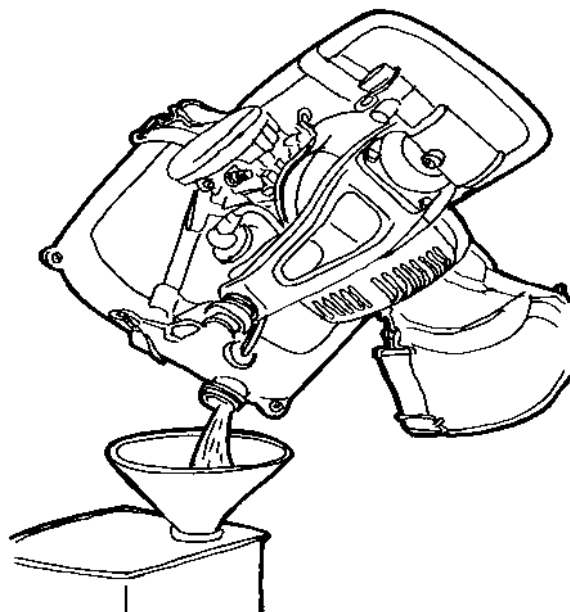
点検部位	点検内容	処置
刈刃	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 取付ボルト、ナットのゆるみ ▪ 割れ、曲がり ▪ 刃先摩耗 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 増し締め ▪ 交換 ▪ 交換
カッタシャフト	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ガタ 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ベアリング交換
ギヤケース	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 締付ボルトゆるみ 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 増し締め
刃受金具	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 内部に草などの混入 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 清掃
前ジャバラ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 被覆破損 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 交換
飛散防護カバー	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 締付ボルトゆるみ ▪ 破損 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 増し締め ▪ 交換
グリップ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ナットゆるみ ▪ 破損、曲がり 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 増し締め ▪ 交換
ストップスイッチ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ コードの抜け ▪ コードの断線 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 接続 ▪ 交換
後部ジャバラ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 被覆破損 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 交換
エアクリーナ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 目づまり 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 清掃
冷却風の通路	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 草、ほこりの付着 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 清掃
燃料タンク	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 傷による漏れ ▪ 取付ネジゆるみ ▪ キャップからの漏れ ▪ 燃料パイプに傷 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 交換 ▪ 増し締め ▪ パッキン交換 ▪ 交換
スロットルワイヤ	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 動き不良 ▪ 遊び不良 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 交換 ▪ 調整

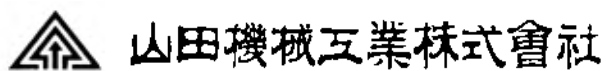
長期保管

- ① 清掃と注油を行った後、各部を点検してください。
- ② 燃料タンクより燃料を出した後、エンジンを低速で自然に止まるまで運転し、キャブレタ内の燃料を使い切ってください。
- ③ 点火プラグを外し、2サイクルエンジンオイルを数滴シリンダ内に注入しリコイルスタータを数回引き、シリンダ内にオイルを塗り広げ、圧縮のあるところで止めてください。
- ④ 移動時カバーを刈刃に取付け、チリやホコリが付着しないように保管してください。

重要

燃料は必ずエンジンから抜き取ってください。燃料タンク内へ燃料を長期入れておくと、オイル分がキャブレタやフィルタ内で変質し、目づまりによる始動不良など故障の原因となります。





本 社 〒651-2404 神戸市西区岩岡町古郷1534 TEL 078(967)1481 FAX 078(967)3090

2023.5 印刷